

双翅目ヒツジバエ上科昆虫の最古の化石

イタリアの古生物学者らの研究グループは、ドミニカの新第三紀中新世の地層から得られた琥珀の中に、ヒツジバエ上科に属する双翅目昆虫（ハエのなかま）を発見した[1]。琥珀に閉じ込められた昆虫化石は非常に保存がよく、現生の双翅目昆虫と非常によく似ている。琥珀にはシロアリなどの昆虫が多く含まれているが、双翅目の昆虫はめったにはなく、貴重な発見である。



Mesembrinella caenozoica sp. nov.

この化石を記載した古生物学者たちは、双翅目昆虫の分子系統解析を行っている。ヒツジバエ上科に属する昆虫は、世界で2万 2000 種が確認されており、双翅目昆虫全体の 14% を占める。分子系統解析の結果、こうした双翅目昆虫の出現は、7000 万年前であり、その多様化は白亜紀末の恐竜などの生物の大量絶滅のあとに起こった出来事だという。

[1] Cerretti et al. (2017) First fossil of an oestroid fly (Diptera: Calyptratae: Oestroidea) and the dating of oestroid divergence. PLoS ONE 2017

DOI:10.1371/journal.pone.0182101.

[